

## 高冷地育苗がスターチス・シヌアータの開花に及ぼす影響

児玉きえ子・遊佐吉雄・佐藤泰征

(宮城県園芸試験場)

Flowering Response of Notch-leaf Sea Lavender, *Limonium sinuatum* Mill, Seedlings

Raised at Highland

Kieko KODAMA, Yoshio YUSA and Yasumasa SATO

(Miyagi Prefectural Horticultural Experiment Station)

### 1 はじめに

スターチス・シヌアータの花成は低温に一定期間遭遇することによって誘導され、その後的高温遭遇は低温の効果打ち消す。筆者らは、催芽種子を2℃で30日間冷蔵し、高温遭遇の危険がなくなる9月上旬に出庫・育苗して加温栽培することによって1~5月に採花できたが、更に採花期を前進するため、種子冷蔵後の高冷地育苗が開花に及ぼす影響について検討した。

### 2 試験方法

#### (1)試験1 播種時期及び育苗地の影響

品種アーリーブルー及びトリス06を供試し、昭和61年7月15日及び31日の2回播種した。各々20℃で24時間催芽後2℃30日間処理した。処理終了後平地育苗区は宮城県園芸圃場(標高32m)で育苗し、高冷地育苗区は出庫当日宮城県駒町耕英(標高550m)に山上げた。育苗は平地、

高冷地とも雨よけ下で行い、黒#600寒冷紗で遮光して、本葉2~3枚時に3号黒ポリポットに仮植した。両播種区とも9月25日に山から下ろし、平地育苗区とともに宮城県園芸圃場ガラス温室内に定植した。室温は12月まで最低12℃、1月以降は9℃に管理した。

#### (2)試験2 山下ろし時期の影響

品種アーリーブルー及びトリス06を供試し、昭和62年6月30日に播種して、種子冷蔵処理後、栗駒町耕英に山上げ育苗した。本葉が8~10枚展開した9月7日及び16日に山から下ろし、直ちに宮城県園芸圃場ガラス温室内に定植した。室温は全期間最低11℃に管理した。

### 3 試験結果及び考察

#### (1) 播種時期及び育苗地の影響

試験期間の栗駒町耕英における気温と30℃以上積算時間数、山下ろし後の気温経過は図1に示すとおりである。

7月15日播種区は、山上げ後30℃以上の高温に60.9時間、

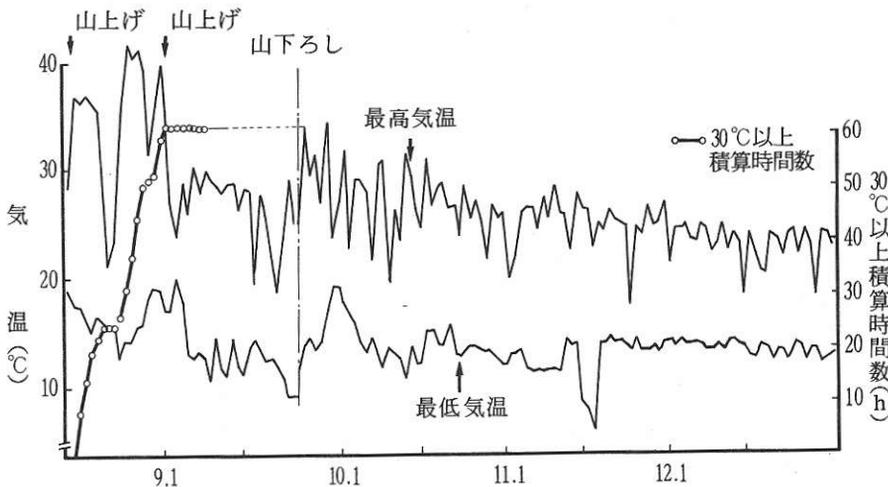


図1 気温経過と30℃以上積算時間数(昭和61年, 宮城県栗駒町耕英)

7月31日播種区は2.0時間遭遇した。夜温は20.6℃が1日あったのみで20℃以下で経過し、18℃以上は5日のみであった。

播種時期及び育苗地が開花に及ぼす影響は表1に示すとおりである。

アーリーブルーの7月15日播種、平地育苗区は1月16日から開花したが、高冷地育苗区は12月22日と25日開花が早まった。7月31日播種では育苗地にかかわらず開花始めは1月6日であった。

1月及び3月までの累積採花本数は、7月15日播種の平

表1 播種時期及び育苗地がスターチス・シヌアータ(品種アーリーブルー)の開花に及ぼす影響(昭和61年)

| 播種<br>(月日) | 育苗地 | 開花始め<br>(月日) | 株 当 たり 採 花 本 数 (本) |     |     |     |     |     |      |      |
|------------|-----|--------------|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
|            |     |              | 12月                | 1月  | 2月  | 3月  | 4月  | 5月  | 小計   | 計    |
| 7.15       | 平地  | 1.16         | —                  | 0.3 | 0.7 | 1.0 | 3.6 | 7.6 | 13.2 | 20.0 |
|            | 高冷地 | 12.22        | 0.5                | 0.7 | 0.9 | 2.2 | 5.8 | 9.7 | 19.8 | 26.6 |
| 7.31       | 平地  | 1.6          | —                  | 1.1 | 0.7 | 1.2 | 4.9 | 6.8 | 14.7 | 16.5 |
|            | 高冷地 | 1.6          | —                  | 1.9 | 2.2 | 2.7 | 4.9 | 6.8 | 18.5 | 22.0 |

注. 計; 小計+不良花数

地育苗区が0.3本, 2.0本, 高冷地育苗区が1.2本, 4.3本であった。同じく7月31日播種の平地育苗区は1.1本, 3.0本, 高冷地育苗区は1.9本, 6.8本で, 両播種区とも高冷地育苗区が多く, 播種時期では7月31日播種区が多かった。

トライS06でもアーリーブルーと同様の傾向が認めら

れた。

(2) 山下ろし時期の影響

昭和62年は61年に比べて曇雨天日が多く, 9月7日山下ろし区の30℃以上遭遇時間は24.4時間, 16日山下ろし区は25.4時間と少なかった。

山下ろし時期が開花に及ぼす影響は表2に示すとおりで

表2 山おろし時期がスターチス・シヌアータ(品種アーリーブルー)の開花に及ぼす影響(昭和62年)

| 山下ろし<br>(月日) | 開花始め<br>(月日) | 株 当 たり 採 花 本 数 (本) |     |     |     |     |     |      |      |
|--------------|--------------|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
|              |              | 11月                | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 4月  | 小計   | 計    |
| 9.7          | 11.5         | 1.4                | 0.4 | 1.1 | 0.9 | 1.5 | 5.5 | 10.8 | 14.3 |
| 9.16         | 11.17        | 0.7                | 0.4 | 1.1 | 1.4 | 0.6 | 5.3 | 5.3  | 12.2 |

ある。

アーリーブルーの9月7日山下ろし区は11月5日, 9月17日山下ろし区は11月17日から開花し, 1月及び3月までの累積採花本数は9月7日山下ろし区がそれぞれ3.9本, 6.3本, 9月17日山下ろし区は2.2本, 4.2本であった。

トライS06もアーリーブルーと同時に開花を始め, 1月及び3月までの累積採花本数は9月7日山下ろし区が4.0本, 6.3本, 9月17日山下ろし区は3.1本, 5.8本であった。

スターチス・シヌアータの種子冷蔵後の育苗温度については, 30℃で処理効果が打ち消され, クーラー利用の冷房育苗では昼温27℃, 夜温17℃以下に管理する必要がある。

本試験では30℃以上の高温に60時間遭遇している61年の

7月15日播種区は, 遭遇していない7月31日播種区に比べ開花期は早かったが抽台数が減少しており, 高温によってある程度処理効果が低下したものと考えられる。62年には25時間遭遇しているが順調に開花している。高標高地では日中は高温となるが, 継続時間が短く, 夜間の温度低下により, 低温の処理効果が打ち消されないのではないかと考えられる。

4 ま と め

宮城県では種子冷蔵後高温を回避するため山上げして育苗し, 本葉が10枚程度展開した9月上~中旬に山から下ろして加温栽培することにより11月上~中旬から採花できる。